

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	14-072	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Systematic review and meta-analysis: prevalence of alcohol use among young people in eastern Africa. 系統的レビューとメタアナリシス：東アフリカにおける若年者の飲酒割合		
執筆者		
Francis JM, Grosskurth H, Changalucha J, Kapiga SH, Weiss HA.		
掲載誌		
Trop Med Int Health. 2014 Apr;19(4):476-88. doi: 10.1111/tmi.12267.		
キーワード		PMID
飲酒、若年者、問題飲酒、東アフリカ、メタアナリシス		24479379
要 旨		
目的： 東アフリカにおける若年者（15歳～24歳）の飲酒者の割合、及びすでに報告されているアルコール研究に関して、標準質問形式の利用状況を系統的レビュー及びメタアナリシスによって評価する。		
方法： 2013年6月までに出版された論文について、5つのデータベース（MEDLINE, ENBASE, Global Health, Africa-wide, PsycINFO）を用いて検索した。結果はPRISMA 声明に則って整理すると共に、改変 QATSO によって質的評価を行った。均質性の解析には DerSimonian-Laird 法を用いた。		
結果： 2,785 の関連研究のうち 56 件が対象基準に適合した。そのうち、質問形式として AUDIT を用いたのは 2 件、CAGE を用いたのは 6 件であった。飲酒経験者の割合の中央値は 52% であり、最近 1 ヶ月以内の飲酒者は 28%、最近 1 年以内の飲酒者は 26% であった。一方、CAGE または AUDIT によって問題飲酒と判定されたのは 15% であった。各研究によって差が大きかったが、飲酒経験者の割合は大学生で 82%、女性労働者で 66% と高く、習慣的飲酒者は男性労働者で 69% と最も高割合であった。		
結論： 東アフリカにおいて、飲酒や問題飲酒は多様な若年者集団において一般的であり、早急な介入の必要性が示唆された。また標準化された質問形式を利用している研究は極めて少なく、若年者の飲酒に関する介入を目的とした疫学研究にはこのような質問形式を適応するべきと考えられた。		